

代名詞・疑問詞を含む複合語の調査

浅尾 仁彦 (名古屋大学文学部)

Survey of compounds containing pronouns and question words

Yoshihiko Asao (Nagoya University)

概要

日本語には「何色」「どこ行き」のように複合語の中に代名詞・疑問詞を含むことができる。このような例は語彙的緊密性 (lexical integrity) の例外とも考えられ、理論的にも興味深い。本研究では、日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) を用いてこのような代名詞・疑問詞を含む複合語を調査してその一覧を示すとともに、「名称選択型」「句包摂型」の2種類への分類を提案する。

1 はじめに

日本語では「何色」「彼女任せ」のように、複合語の中に代名詞・疑問詞を含むことができる。本研究では代名詞・疑問詞を含む複合語について日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) を調査し、その生起条件について考察を加えることを目的とする。

2 研究の背景

Postal (1969) は、単語の一部だけが照応に参加するということはできないとする照応の島 (anaphoric island) の概念を提案した。実際、英語では代名詞を語の一部に用いた、**him-ite*, **who-ite*, **which-less* のような語は認可されない^{*1}。一方、影山 (1993, 11), 影山、由本 (1997, 69), 影山 (1999, 8), 伊藤、杉岡 (2002, 8) などが指摘するように、日本語では「彼好み」「ここ止まり」のように、代名詞を含む語が可能である。グルジア語でも代名詞を含む複合語が可能であると主張されている (Harris, 2006)^{*2}。

影山らは、「彼好み」や「ここ止まり」のように代名詞を含む複合語の例は、直示 (deixis) にあたり、照応とは区別されているとしており、原則としては「*それすくい (cf. 金魚すくい)」「*彼らげんか (cf. 夫婦げんか)」のように、照応を含む表現は容認されないという立場を取っている。しかし、例えば (1a) のような直示的用法だけではなく、(1b) のように文中で仮に導入された要素を指すような用法でも、特に容認不可能にはならない。

(1) a. この電車は [ここ止まり] です。

^{*1} *forget-me-not* や *she-bear* のように照応詞としての機能を失ったものは除く。なお、*therefore*, *whatever*, *himself* のような語は例外とも考えられるが (Harris, 2006, 116)、このような例には生産性はない。

^{*2} 英語で代名詞を含む複合語が許されない理由は、Sproat (1988, 297) では、最大投射が語形成に参加できないため、また、Lieber (1992, 123) では、代名詞が閉じたクラスであるためとされている。これらの説を取った場合、日本語は英語と異なり、名詞と代名詞とのあいだに統語範疇の違いがないとすれば (福井, 1989)、日本語において内向きの照応の島が生じないことは説明できることになる。影山 (1993, 336–338) の疑問詞を含む複合語についての日英の違いの議論も、基本的にこれと同じ考え方といえることができる。

- b. ある駅で確実に降りたい場合、[そこ止まり]の電車に乗るようにすれば、寝過ごす心配がなく安心だ。

逆に「*それすくい」や「*彼らげんか」のような表現は、直示であっても不自然であり、照応と直示の区別が容認度に関与していると言えるのかどうかは判然としない。「ここ止まり」「彼好み」のような容認可能なケースと、「*それすくい」「*彼らげんか」のように容認できないケースとでは何が異なるのかが問題になる。

3 調査

本研究では日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) を「中納言」を用いて、代名詞を含む複合語を検索した。複合語全体が辞書に登録されている場合とされていない場合の両方があることを考慮し、次の2種類の場合に分けて調査を行った。

- (2) a. 代名詞のあとに名詞が後続するもの
b. 名詞のうち、初頭部分の音/表記が代名詞と一致するもの

可能性としては、名詞以外と複合する場合や、複合語の後部要素が代名詞となることも考えられるが、そのようなケースは稀であると考え、今回は除外した^{*3}。上記の検索結果から、調査者の直観に基づき複合語を形成しているものを探した。その際、以下のようなものは除外された。

- (3) a. 現代日本語の文とは言いにくいもの
b. 形態素解析の誤り
c. ゼロ助詞によってたまたま名詞が連続したもので、複合語ではないもの（例えば「おまえ、それ本気でやってるのか？」）
d. 音韻的語をなさないもの。該当するものには「それ全体」「彼専用」「彼女抜き」などがある。これらの例がどのようなカテゴリを成すかどうかは今後の課題となる。
e. 句の包摂ないし引用によるもの。例えば「[うそは どれ]クイズ」のようなものが該当する。
f. 重複形（「いついつ」「誰々」など）
g. 代名詞・疑問詞を含む合成語と言える可能性があるものの、代名詞・疑問詞としての機能を失っていると考えられるもの。「これ見よがし」「どっちみち」「あれこれ」「私事」「オレオレ詐欺」「彼氏」「誰彼かまわず」などが該当する。また「自分嫌い」などの「自分」を含む複合語も、照応的ないし直示的と言える可能性があるものの判断が難しく、今回は除外した。
h. 数詞または助数詞のついたもの（「何日」「何回」「何万」）。ただしこれらも疑問詞を含む複合語と言える可能性がある。

^{*3} 品詞を名詞に限ったために、実際には今回の調査対象の語と同じような性質のものであるにもかかわらず、検索結果から漏れたものに「これ系」「これ狙い」のようなものがある（「-系」「-狙い」は接辞扱いとなっている）。

4 結果

検索の結果以下のような語が見つかった（表記揺れを吸収したため、実際に出現する表記と異なる場合がある）。

これ これ目当て (2)

それ それ目当て (4)、それ状態 (2)

あれ あれ目当て (1)

そこ そこ止まり (1)

あそこ あそこ近く (1)

どこ どこあたり (2)、どこ駅 (2)、どこ公演 (1)、どこ証券会社 (1)、どこ仕様 (1)、どこ大学 (1)、どこプロバイダ (1)、どこ方向 (1)、どこ方面 (1)、どこルート (1)

こちら こちら側 (294)、こちら方面 (5)、こちら岸 (4)、こちら地方 (3)、こちらあたり (1)、こちら式 (1)、こちら方向 (1)、こちら任せ (1)

そちら そちら側 (23)、そちら方面 (22)、そちらサイド (1)、そちら畑 (1)、そちら方向 (1)、そちら問題 (1)

あちら あちら側 (38)、あちら方面 (3)、あちら関係 (1)、あちら地方 (1)、あちら持ち (1)

どちら どちら側 (43)、どちら設定 (1)、どちら方向 (1)、どちら方面 (1)、どちら巻き (2)、どちら目線 (1)

私 私好み (4)、私色 (1)、私名義 (1)、私流 (1)、私流儀 (1)、私レベル (1)

僕 僕好み (4)、僕名義 (2)、僕譲り (1)

俺 俺好み (8)、俺ルール (3)、俺節 (2)、俺アイデア (1)、俺色 (1)、俺語 (1)、俺式 (1)、俺設定 (1)

君 君色 (1)

あなた あなたがた (63)、あなた側 (19)、あなた好み (10)、あなた名義 (7)、あなた任せ (6)、あなた色 (2)、あなた譲り (1)、あなた目当て (1)、あなたタイプ (1)、あなた通り (1)

彼 彼好み (10)、彼側 (4)、彼名義 (2)、彼経由 (1)、彼仕様 (1)、彼目当て (1)

彼女 彼女名義 (2)、彼女好み (2)、彼女関係 (1)、彼女任せ (1)、彼女目当て (1)

何 (なに) 何事 (2065)、何者 (1957)、何色 (なにいろ) (180)、何語 (なにご) (62)、何県 (20)、何奴 (なにやつ) (14)、何味 (13)、何フェチ (10)、何人 (なにじん) (7)、何区 (7)、何ゴミ (6)、何カップ (6)、何町 (6)、何部 (5)、何課 (5)、何市 (5)、何川 (5)、何星 (5)、何宗 (5)、何犬 (4)、何先生 (4)、何山 (4)、何主義 (4)、何学部 (3)、何料理 (3)、何国 (3)、何曜 (1)、何屋 (3)、何役 (3)、何新聞 (2)、何パンダ (2)、何口 (2)、何駅 (2)、何地帯 (2)、何鍋 (2)、何賞 (2)、何組 (2)、何語族 (1)、何油 (1)、何占い (1)、何おにぎり (1)、何カエル (1)、何カビ (1)、何がん (1)、何関係 (1)、何キー (1)、何景気 (1)、何高校 (1)、何サンド (1)、何痔 (1)、何石膏 (1)、何ゼミ (1)、何属性 (1)、何タイプ (1)、何罪 (1)、何トースト (1)、何年 (なにどし) (1)、何鳥 (1)、何トンボ (1)、何なまり (1)、何猫 (1)、何パン (1)、何ふぐ (1)、何報告 (1)、何マニア (1)、何結び (1)、何指 (1)、何案件 (1)、何うどん

(1)、何映画 (1)、何ガール (1)、何花粉 (1)、何カレー (1)、何球場 (1)、何銀行 (1)、何組 (1)、何現象 (1)、何公共団体 (1)、何航空 (1)、何国民学校 (1)、何婚式 (1)、何時代 (1)、何職人 (1)、何書道 (1)、何人種 (1)、何線区 (1)、何戦争 (1)、何戦隊 (1)、何ソース (1)、何地方 (1)、何出口 (1)、何都道府県 (1)、何版 (1)、何棒 (1)、何保険 (1)、何味噌 (1)、何目線 (1)、何野郎 (1)、何列車 (1)

何 (なん) 何人 (なんびと) (82)、何曜日 (62)、何時 (なんどき) (47)

誰 誰色 (1)、誰ファン (1)、誰情報 (1)、誰タイプ (1)

いつ いつ頃 (990)、いつ現在 (2)、いつ時代 (1)

5 考察

代名詞・疑問詞を含む複合語について、以下のような分類を提案する。

(4) a. 語彙化しているもの (「何者」「何事」など)

b. 生産的なもの

(i) **名称選択型**：選択肢のうちから選択する性質のもので、場合によってはメタ言語的に名称を問う表現になるもの。「何語 (なにご)」「どこ大学」など。

(ii) **句包摂型**：パターンの生産性が高く、後部要素名詞が前部要素として句を取ることにも可能で、その位置に代名詞も許容されるタイプのもの。「これ目当て」「それ状態」など。

生産的なもののうち、(i) は疑問詞、(ii) は (疑問詞でない) 代名詞の例が多い。ただし「そちら側」「どちら側」、「あなたタイプ」「誰タイプ」のような例は (i) と (ii) の性質を兼ね備えているように思われる。以下で (i) と (ii) の実例を挙げて具体的に論じる。

5.1 (i) 名称選択型

まず (i) には、引用の形式が明示され、明らかに名称を問うメタ言語的な使用であることが明らかなのがある (5a)。しかし、引用であることが明示されていなくても、(5b) のように実際には名称を問うていると考えられる例は多い。(5c) のようなケースは、名称よりも内容を問うている側面が強くなるが、明確な境界を定めるのが難しい。

(5) a. .. 好景気だとすると、[なにに景気] と名付けるべきでしょうか？ [知恵袋 OC03_02086]

b. 結婚十五年目は [何婚式] ですか？ [知恵袋 OC11_01609]

c. 割れた陶器や鏡って、[何ゴミ] に出したらいいですか？ [知恵袋 OC08_00532]

使用される疑問詞は「何」が圧倒的に多いが、意味内容が場所名詞であったり、方向であったりする場合は、他の疑問詞が用いられる例もある。

(6) a. 台風は左右 [どちら巻き] ですか？ [知恵袋 OC12_06166]

b. .. 「え、それって [いつ時代]？」ってなってみんなで考えたんだけど、..

[Yahoo! ブログ OY04_03547]

「どちら巻き」や「何ゴミ」のような例から分かるように、このような形式が用いられるためには例えば「-巻き」という形式に対して「左巻き」「右巻き」のような複数の選択肢が意識されさえすればよく、その複合パターンの生産性が特に高い必要はない。

ほとんどの例は「どこ駅」に対する「東京駅」「立川駅」のように、代名詞の部分具体的な名詞で置き換えた表現が存在するが、わずかに例外がある。次の「どこ証券会社」「どこプロバイダ」の例は、個別の証券会社やプロバイダを指して「-証券会社」「-プロバイダ」のようにあまり表現されないにもかかわらず出現している（ただし誤記である可能性もある）。

- (7) a. インターネット取引をしようと思っていますが、手数料など考えて【どこ証券会社】がいいでしょうか？ [知恵袋 OC03_02039]
b. .. プロバイダがヤフーじゃないと知恵袋出来ないと勘違いされている人がいる見たいですが、別に【どこプロバイダ】でも出来るって知ってますよね？ [知恵袋 OC14_11504]

5.2 (ii) 句包摂型

このタイプは、複合の生産性が高く、先行文脈の内容を受けて代名詞を取るのが容易になっているものである。例えば次の「-目当て」「-状態」のような例は、前部に来ることのできる名詞に実質的に制限がない。これは (i) タイプの「-語」「-大学」のような、固有名から選択するタイプのものとは性質を異にする。

- (8) a. .. 声優さんは名の知れてる方々なので、【それ目当て】じゃないと見る価値はないと思いますね。 [Yahoo! ブログ OY15_09437]
b. 左手の中指の爪の奥（腕に近いほう）を扉にぶつけて .. 放置しておいても大丈夫でしょうか .. 今まさに【それ状態】です [知恵袋 OC09_03732]

このような例は、句の包摂（影山, 1993, 326）を許すような場合と一致するのではないかと考えられる。句の包摂を許すということは、さまざまな意味内容の表現に生産的に「-目当て」のような表現が後続できることを示しており、そのことが「それ」などによる直示ないし照応を用いた表現の利用可能性にも結びついていると考えることができる。実際、「-目当て」には次の (9a) のような例がある。さらに「-状態」のような例は、(9b) に見るように、任意の文を引用の形で取ることができる。

- (9) a. 民主党の日替わり「マニフェスト」は【選挙の票目当て】の、.. [知恵袋 OC05_02551]
b. .. 高価クセモノ三兄弟などがぐるっと並んで【もうどこから攻めていったらいいかわかりません状態】になっている。 [図書館・書籍 LBs9_00004]

この (9b) のような例は、山下 (2000) で「-的」の引用機能と呼ばれているもの（「皆がやっているから私もやる的発想」のような例）や、中平 (2013) で「-疑惑」「-感」などの用法を取り上げて「引用による文の名詞化・修飾」と分析されているものに該当する。従って (9b) のような例は、(i) の名称選択型と同じように引用機能が関与しているといえる（ただしその働きは大きく異なる）。

6 まとめ

本研究では代名詞・疑問詞を含む複合語のコーパスからの収集を通じて、その用法を分析した。代名詞・疑問詞を含む複合語が使用される条件にはいくつかのタイプがある。「名称選択型」「句包摂型」の2つに分類する分析を示した。

参考文献

- 福井直樹 (1989). 「日・英語比較統語論：日・英語の類型論上の相違点とその理論的説明」. 井上和子 (編), 『日本文法小事典』, pp. 89–108. 大修館書店.
- Harris, A. C. (2006). Revisiting anaphoric islands. *Language*, **82**: 1, pp. 114–130.
- 伊藤たかね、杉岡洋子 (2002). 『語の仕組みと語形成』. 研究社.
- 影山太郎 (1993). 『文法と語形成』. ひつじ書房.
- 影山太郎 (1999). 『形態論と意味』. くろしお出版.
- Kageyama, T. (2001). Word plus: The intersection of words and phrases. In J. M. van de Weijer & T. Nishihara (Eds.), *Issues in Japanese phonology and morphology*, pp. 245–276. Berlin: Walter de Gruyter.
- 影山太郎、由本陽子 (1997). 『語形成と概念構造』. 研究社.
- Lieber, R. (1992). *Deconstructing Morphology: Word Formation in Syntactic Theory*. Chicago: University of Chicago Press.
- 中平詩織 (2013). 「引用による文の名詞化・修飾に関して」. 『筑紫日本語研究 2012』, pp. 127–135.
- Postal, P. (1969). Anaphoric islands. *CLS* 5, pp. 205–239.
- Sproat, R. (1988). On anaphoric Islandhood. In M. Hammond & M. Noonan (Eds.), *Theoretical Morphology*, pp. 291–301. New York: Academic Press.
- 山下喜代 (2000). 「漢語系接尾辞の語形成と助辞化：「的」を中心にして」. 『日本語学』, **19**: 11, pp. 52–64.